



世界の首脳がやってきた 伊勢志摩サミットって何？



そもそもサミットって何？

サミットは英語で「山の頂上」を意味します。各国のトップが集まることから名付けられました。参加国は日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7カ国で「グループ・オブ・セブン」を略してG7首脳会議とも呼ばれます。また、欧州連合（EU）の委員長なども会議に出席します。

【参加する各国の首脳】

日本	安倍晋三首相
アメリカ	オバマ大統領
イギリス	キャメロン大統領
フランス	オランド大統領
ドイツ	メルケル首相
イタリア	レンツィ首相
カナダ	トルドー首相
EU	ドゥスク欧州理事会常任議長 ユンケル欧州委員会委員長

始まりは世界の経済混乱

1970年代、原油価格が大幅に上がる石油危機などで混乱した世界経済の問題に対応するため、首脳同士が腹を割って話し合う必要があるとして、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアの6カ国の首脳が集まったのが始まりです。その後カナダが加わってG7になりました。

*ロシア（当時ソ連）は、1998年以降に加わってG8となりましたが、ロシアがウクライナの一部を強引に領土に組み入れたことが問題となり、2014年から参加をしていません。

どうして日本で開かれたの？

サミットを開く国のことを議長国🇯🇵と言い、各国が順番に担当することになっています。議長国は、開催する年の1~12月の間、会議の進行をしたり、サミット開催に向けた準備をしたりします。

どんなことをするの？



各国の首脳が一つのテーブルを囲み、国際的に解決すべき問題について議論し、その成果を宣言としてまとめます。サミット前後には、各国の大臣が集まる関連会合が開かれます。課題ごとに担当する大臣が集まり、サミットの基礎になる話し合いをしています。

話し合った主なテーマ

- 世界経済（中国の経済成長の減速や原油価格下落による不安定な世界経済について）
- 政治・外交問題（テロ対策・難民問題・北朝鮮の核）
- 環境・エネルギー・保健（温暖化防止、エボラ出血熱等の感染症対策）

伊勢志摩には魅力がいっぱい

三重県は紀伊半島の東側にあり、伊勢神宮や世界文化遺産の熊野古道がある伝統文化の色濃い土地です。忍者や海女も有名です。海岸線が複雑に入り組んだリアス式海岸など、美しい自然や名所がたくさんあります。

志摩市は全域が伊勢志摩国立公園になっています。自然を守るために国が指定し管理するのが国立公園ですが、伊勢志摩国立公園はその90%以上が私有地です。土地の人たちが生活しながら自然を守っています。

賢島は真珠の養殖で知られる英虞湾内にあり、周囲は約7キロ。元々は無人島でしたが、開発が進み人も住むようになりました。伊勢エビ、松坂牛、赤福餅などおいしい物もいっぱいです

募集👉 選書に行こう！

7月1日（金）、期末考査終了後、図書館に新しく入れる本の選書に行きます。場所は「KaBos 大桑店」です。選書をしてみたい！あの本が読みたかった！一緒に行きたい！という人は図書館まで申し出て下さい。詳しい説明をします。